

山にひそむ敵に撃ち込むつもり
の砲弾が、照準をあやまって山の斜面に当たった。着弾点に雪煙りが上がったかと思つと、斜面の積雪が轟音を上げてなだれ落ち、山の敵兵を埋め尽くした…。

第1次世界大戦中、雪深いアルプス山中でイタリア軍とオーストリア軍の間で行われた「雪崩作戦」は、こんなことがきっかけで始まったらしい。

この作戦でオーストリア軍は2昼夜で3千人の戦死者を出し、戦争中の両軍の「自然なだれ」と「人工雪崩」による死者は4万人以上に達したと記している書物もある。この数字はやや過大のようにも思われるが、雪崩の危険地帯で集団行動する場合の死者災害ポテンシャル（潜在可能死者数）は、予想外に大きいと見なければならぬ。

一見、平穏に見える積雪が、実はぎりぎりの力の釣り合いで、斜面にしがみついている場合がある。そこにちょっとした刺激が加わると大雪崩が起るのである。

そのきっかけは、山の稜線にできている雪庇の転落、斜

危険箇所 入らないで

今月のお題 雪崩に注意

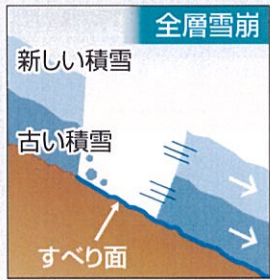
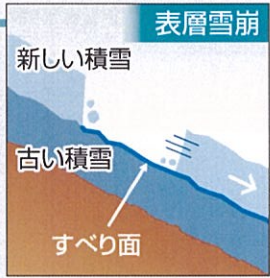
面を転げ落ちる雪の小塊がタ
ルマ式に大きくなるスノト・
ポール、気温の上昇や大雨、
突風などのほかに、わずかな
空気の振動によっても起る

ことがある。スキーヤーの一
人が転落した瞬間、斜面の雪
が幕を切ったように滑りだ
し、グループ全員が死亡した
例もある。

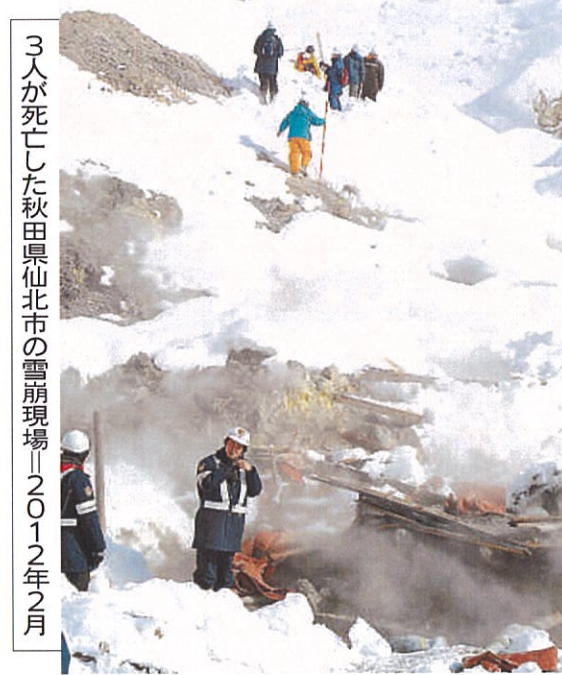
近年は、雪崩が起りそ
うな箇所を早くみつめて、災害
になる前に「人工雪崩」を起
こしてしまつ「雪崩作戦」も
行われているようだ。雪崩に
よる被害が発生する恐れのある
区域のうち、人家等のある
箇所および人家等が建設され
る可能性の高い区域を「雪崩
危険箇所」と呼び、青森県には
1866の危険箇所がある。

雪崩事故の救助法

- 1 雪崩に遭遇したら**
 - ①流されている人を見続けること
 - ②その人が雪崩に巻き込まれた地点（遭難点）、見えなくなった地点（消失点）を覚えておく
 - ③雪崩が止まったら、見張りの人を立てて、遭難点と消失点にポールや木などの目印を立てる
 - ④すぐにビーコンなどを用いて捜索を開始する
 - ⑤見つければ、ただちに掘り起こして救急処置を行う
- 2 自分が流されたら**
 - ①雪崩の流れの端へ逃げる
 - ②仲間が巻き込まれないように、知らせる
 - ③身体から荷物をはずす
 - ④雪の中で泳いで浮上するようにする
 - ⑤雪が止まりそうになったら、雪の中で手を使って口の前に空間をつくる
 - ⑥雪の中から、上を歩いている人の声が聞こえたら、大きな声を出す



雪崩対応安全ガイドブック(全国地すべりがけ崩れ対策協議会 雪崩部会発行)を基に作成



3人が死亡した秋田県仙北市の雪崩現場 2012年2月

さて、雪崩には大きく分けて「全層雪崩」と「表層雪崩」がある。全層雪崩は、降り積もった雪が根こそぎ滑るもので、春先や雪解け時期に多い。一方、表層雪崩は時期に関係なく、古い積雪の上に積もった新しい雪だけが滑る。真冬の表層雪崩は、速度が速く破壊力が強大で、被害も広範囲になる。

万一、雪崩に巻き込まれたら、手と足を伸ばして、水の中に落ちた時のようにバタバタともがいて泳ぎ、とにかく表面に浮かび上がれ—と云う専門家もいる。

この冬もすでに何回か雪崩注意報が発表されている。雪崩に遭わないためには、危険箇所には絶対に入りこまないことである。とにかく冬山は危険がいっぱいなので、安全第一で楽しんでほしいものである。

(工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住)